

1

1 はじめに神は天と地とを創造された。

2 地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり、神の靈が水のおもてをおおつていた。

3 神は「光あれ」と言われた。すると光があった。

4 神はその光を見て、良しとされた。神はその光とやみとを分けられた。

5 神は光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられた。夕となり、また朝となつた。第一日である。

6 神はまた言われた、「水の間におおぞらがあつて、水と水とを分けよ」。

7 そのようになつた。神はおおぞらを造つて、おおぞらの下の水とおおぞらの上の水とを分けられた。

8 神はそのおおぞらを天と名づけられた。夕となり、また朝となつた。第二日である。

9 神はまた言われた、「天の下の水は一つ所に集まり、かわいた地が現れよ」。そのようになつた。

10 神はそのかわいた地を陸と名づけられた。神は見て、良しがつけられた。神は見えて、良しとされた。

11 神はまた言われた、「地は青草と、種類にしたがつて種をもつ草と、種類にしたがつて種をもつ草と、種類にしたがつて種のある実を結ぶ木とをはえさせた。神は見て、良しがつて種のある実を結ぶ木とをはえさせた。神は見て、良しとされた。

12 地は青草と、種類にしたがつて種をもつ草と、種類にしたがつて種のある実を結ぶ木とをはえさせた。神は見て、良しとされた。

13 夕となり、また朝となつた。第三日である。

14 神はまた言われた、「天のおおぞらに光があつて昼と夜とを分け、しるしのため、季節のため、日のため、年のためになり、天のおおぞらにあつて地を照らす光となれ」。そのようになつた。

15 天のおおぞらにあつて地を照らす光となれ」。そのようになつた。

16 神は二つの大きな光を作り、大きい光に昼をつかさどらせ、小さい光に夜をつかさどらせ、また星を造られた。

17 神はこれらを天のおおぞらに置いて地を照らさせた。

18 昼と夜とをつかさどらせ、光とやみとを分けさせられた。

19 神は見て、良しとされた。

20 夕となり、また朝となつた。第四日である。

21 神は海の大きいなる獸と、水に群がるすべての動く生き物とを、種類にしたがつて創造し、また翼のあるすべての鳥を、種類にしたがつて創造された。神は見て、良しとされた。

22 神はこれらを祝福して言われた、「生めよ、ふえよ、海の水に満ちよ、また鳥は地上にふえよ」。

23 夕となり、また朝となつた。第五日である。

24 神はまた言われた、「地は生き物を種類にしたがつていたが、家畜と、這うものと、地の獸とを種類にしたがつていた。地中に這うすべての物を種類にしたがつて造られた。神は見て、良しとされた。

25 神は地の獸を種類にしたがい、家畜を種類にしたがい、また地に這うすべての獸と、地のすべての獸とを治めさせよう」。

26 神はまた言われた、「われわれのかたちに、われわれにかたどつて人を造り、これに海の魚と、空の鳥と、家畜と、地のすべての獸と、地のすべての獸とを治めさせよう」。

27 神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたに創造し、男と女とに創造された。

28 神は彼らを祝福して言われた、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ」。

29 神はまた言われた、「私は全地のおもてにある種をもつすべきの草と、種のある実を結ぶすべての木とをあなたがたに与える。これはあなたがたの食物となるであろう。

30 また地のすべての獸、空のすべての鳥、地を這うすべてのもの、すなわち命あるものには、食物としてすべての青草

31 神が造つたすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かつた。夕となり、また朝となつた。第八日である。

2

1 こうして天と地と、その万象とが完成した。

2 神は第七日にその作業を終えられた。すなわち、そのすべての作業を終つて第七日に休まれた。

3 神はその第七日を祝福して、これを聖別された。神がこの日に、そのすべての創造のわざを終つて休まれたからである。

4 これが天地創造の由来である。

5 地にはまだ野の木もなく、また野の草もはえていなかつた。主なる神が地に雨を降らせせず、また土を耕す人もなかつたからである。

6 しかし地から泉がわきあがつて土の全面を潤していた。

7 主なる神は土のちりで人を造り、命の息をその鼻に吹きいれられた。そこで人は生きた者となつた。

8 主なる神は東のかた、エデンに一つの園を設けて、その造った人をそこに置かれた。

9 また主なる神は、見て美しく、食べるに良いすべての木を土からはえさせ、更に園の中央に命の木と、善惡を知る木とをはえさせられた。

10 また一つの川がエデンから流れ出て園を潤し、そこから分れて四つの川となつた。

11 その第一の名はピソンといい、金のあるハビラの全地をめぐるもので、

12 その地の金は良く、またそこはブドラークと、しまめのうとを産した。

13 第二の川の名はギデオンといい、クシンの全地をめぐるもの。

14 第三の川の名はヒデケルといい、アッスリヤの東を流れるもの。第四の川はユフラテである。

15 主なる神は人を連れて行つてエデンの園に置き、これを耕させ、これを守らせられた。

16 主なる神はその人に命じて言われた、「あなたは園のどの木からでも心のままに取つて食べてよろしい。

17 しかし善惡を知る木からは取つて食べてはならない。それを取つて食べると、きっと死ぬであろう」。

18 また主なる神は言われた、「人がひとりでいるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう」。

19 そして主なる神は野のすべての獸と、空のすべての鳥とを土で造り、人のところへ連れてきて、彼がそれにどんな名をつけるかを見られた。人がすべて生き物に与える名は、その名となるのであつた。

20 それで人は、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獸とに名をつけたが、人にはふさわしい助け手が見つかなかつた。

21 そこで主なる神は人を深く眠らせ、眠つた時に、そのあばら骨の一つを取つて、その所を肉でふさがれた。

22 主なる神は人から取つたあばら骨でひとりの女を造り、人のところへ連れてこられた。

23 そのとき、人は言つた。「これこそ、ついに私の骨の骨、私の肉の肉。

24 それでは人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。

25 人とその妻とは、ふたりとも裸であつたが、恥ずかしいとは思わなかつた。

26 男から取つたものだから、これを女と名づけよう」。



1 私はまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなつてしまつた。

2 また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾つた花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下つて来るのを見た。

3 また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の墓屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいとつて下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のものが、すでに過ぎ去つたからである」。

4 すると、御座にいますかたが言われた、「見よ、私はすべてのものを新たにする」。また言われた、「書きしるせ。これらの言葉は、信すべきであり、まことである」。

5 そして、私に仰せられた、「事はすでに成つた。私は、アルパでありオメガである。初めであり終りである。かわいいている者には、いのちの水の泉から価なしに飲ませよう。勝利を得る者は、これらのものを受け継ぐであろう。私は彼の神となり、彼は私の子となる。しかし、おくびょうな者、信じない者、忌むべき者、人殺し、姦淫を行う者、まじないをする者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者には、火と硫黄の燃えている池が、彼らの受くべき報いである。これが第二の死である」。

6 最後の七つの災害が満ちている七つの鉢を持っていた七人の御使のひとりがきて、私に語つて言つた、「さあ、きなさい。小羊の妻なる花嫁を見せよう」。

7 この御使は、私を御靈に感じたまま、大きな高い山に連れて行き、聖都エルサレムが、神の栄光のうちに、神のみもとを出て天から下つて来るのを見させてくれた。

8 その都の輝きは、高価な宝石のようであり、透明な碧玉のようであつた。

9 それには大きな、高い城壁があつて、十二の門があり、それらの門には、十二の御使があり、イスラエルの子らの十二部族の名が、それに書いてあつた。

10 東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があつた。

11 また都の城壁には十二の土台があり、それには小羊の十二使徒の十二の名が書いてあつた。

12 都は方形であつて、その長さと幅とは同じである。彼がその測りざおで都を測ると、一万二千丁であつた。長さと幅と高さとは、いずれも同じである。

13 また城壁を測ると、百四十四キュビトであつた。これは人間の、すなわち、御使の尺度によるのである。

14 城壁は碧玉で築かれ、都はすきとおつたガラスのような純金で造られていた。

15 都の城壁の土台は、さまざまな宝石で飾られていた。第一の土台は碧玉、第二はサファイヤ、第三はめのう、第四は緑玉、第五は縞めのう、第六は赤めのう、第七はかんらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉石、第十はひすい、第十一は青玉、第十二は紫水晶であつた。

16 第十二の門は十二の真珠であり、門はそれぞれ一つの真珠で造られ、都の大通りは、すきとおつたガラスのような純金であつた。

17 私は、この都の中には聖所を見なかつた。全能者にして主なる神と小羊とが、その聖所なのである。都は、日や月がそれを照す必要がない。神の栄光が都を明るくし、小羊が都のあかりだからである。

18 諸国民は都の光の中を歩き、地の王たちは、自分たちの光榮をそこに携えて来る。都の門は、終日、閉ざされることはない。そこには夜がな

26 人々は、諸国民の光榮とほまれとをそこに携えて来る。
27 しかし、汚れた者や、忌むべきこと及び偽りを行う者は、その中に決してはいれない。はいれる者は、小羊のいのちの書に名をしるされている者だけである。

1 御使はまた、水晶のように輝いているいのちの水の川を私に見せてくれた。この川は、神と小羊との御座から出て、2都の大通りの中央を流れている。川の両側にはいのちの木があつて、十二種の実を結び、その実は毎月みのり、その木の葉は諸国民をいやす。

3 のろわるべきものは、もはや何ひとつない。神と小羊との御座は都の中にあり、その僕たちは彼を礼拝し、主なる神が彼らを照し、そして、彼らは世々限りなく支配する。

4 御顔を仰ぎ見るのである。彼らの額には、御名がしるされている。

5 夜は、もはやない。あかりも太陽の光も、いらない。主なる神が彼らを照し、そして、彼らは世々限りなく支配する。

6 彼はまた、私に言つた、「これらの言葉は信すべきであり、まことである。預言者たちのたましいの神なる主は、すぐにも起るべきことをその僕たちに示そうとして、御使をつかわされたのである。

7 見よ、私は、すぐに来る。この書の預言の言葉を守る者は、さいわいである」。

8 これらのことを見聞きした者は、このヨハネである。私が見聞きした時、それらのことを示してくれた御使の足もとにひれ伏して拝そうとする。

9 彼は言つた、「そのようなことをしてはいけない。私は、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書の言葉を守る者たちと、同じ僕仲間である。ただ神だけを拝しなさい」。

10 また私に言つた、「この書の預言の言葉を封じてはならない。時が近づいているからである。

11 不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うまさにさせよ」。

12 「見よ、私はすぐに入る。報いを携えてきて、それぞれの犬ども、まじないをする者、姦淫を行う者、人殺し、偶像を拝む者、また、偽りを好みかつこれを行ふ者はみな、外に出されている。

13 私はアルパであり、オメガである。最初の者であり、最後の者である。初めてであり、終りである。

14 いのちの木にあずかる特權を与えられ、また門をとおつて都にはいるために、自分の着物を洗う者は、さいわいである。

15 私イエスは、使をつかわして、諸教会のために、これらのことをあなたがたにあかしした。私は、ダビデの若枝また子孫であり、輝く明けの明星である」。

16 御靈も花嫁も共に言つた、「きたりませ」。また、聞く者も「きたりませ」と言いなさい。かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けれるがよい。

17 この書の預言の言葉を聞くすべての人々に對して、私はその人の受くべき分を、この書に書かれているいのちの木と聖なる都から、とり除かれる。

18 この書に書かれている災害を加えられる。もしこれに書き加える者があれば、神はその人

19 また、もしこの預言の書の言葉をとり除く者があれば、神はすぐに入れる」。アアメン、主イエスよ、きたりませ。

20 これらのことあかしするかたが仰せになる、「しかり、私はすぐに入れる」。

21 主イエスの恵みが、一同の者と共にあるように。

